

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

【本日の奨励】

本日の聖書テキストには洗礼者ヨハネというひとりの先駆者が描かれています。マルコ 1:7-8 を読む限りでは、ヨハネはイエスの単なる前触れでしかなく、脇役に位置づけられています。しかし、ヨハネの働きには「悔い改めの洗礼」という後のキリスト教が中心に位置づける概念が含まれており、本来ヨハネはイエスの単なる前触れではなく、ユダヤ教の革新的運動家としても、ユダヤ教からキリスト教が分離独立するうえにおいても、先駆者として1世紀のユダヤ世界を駆け抜けた人物だと言えます。

実際、ヨハネはイエスより先に斬首刑で処刑されており（マルコ 6:14-29、オスカー・ワイルド『サロメ』参照）、その姿はイエスとも重なります。しかも、歴史的には元々はヨハの弟子であったイエスがヨハネのもとを離れて独自の活動を開始したと推察できますので、イエスがヨハネの後を追うかのようにユダヤ世界を駆け抜け、十字架刑で処刑されたと言った方が適切かもしれません。イエスがヨハネの弟子であったと想定すれば、ヨハネの「悔い改めの洗礼」をイエスが受け継ぎ、人々に「悔い改め」を宣べ伝えた想定することもできるのです。

本日の聖書テキストからも分かるように、キリスト教は洗礼者ヨハネをイエスの前触れに位置づけ、脇役にしてしまっています。しかし、その歴史を繙けば、ヨハネはイエスの単なる前触れではなく、時代の先駆者だったと言えるのです。わたしたちが物事を見るときも、つつい主役ばかりを見てしまいます。例えば、酪農学園の歴史についても、創立者の黒澤西蔵や初代学長の樋浦誠にばかり注目してしまいがちですが、学園の草創期を支えた多様な人たちがいることを忘れてはならないと思うのです。それと同様に、この世界を支えているのは一部のスポットを当てられている人たちだけではないのです。わたしたちがどこに目を留めて生きるのか、そのことによって、わたしたちが見ている世界も全く違って感じられるのです。

【次回の大学礼拝】2019年10月8日（火）10時40分

聖書：ルカによる福音書6章27-38節

奨励：「与えなさい——ウガンダでの3年間を振り返って」蒔田浩平先生

讃美歌：1編312番（いつくしみふかき）、1編291番（主にまかせよ）

次回の大学礼拝は獣医学類獣疫学ユニット教授の蒔田浩平先生に奨励をご担当いただきます。ウガンダでお働きになった貴重な経験を聖書に基づいてお話しくさいます。みなさん、ぜひご出席ください。

【前回の大学礼拝】2019年9月24日（火）

学生 254名 教職員ほか 8名 合計 262名

【大学礼拝週報】 2019年度 第17号（前学期第2号）

2019年10月1日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《大学礼拝》

司式 小林昭博（宗教主任）
奏楽 佐藤理恵（野幌教会会員）
讃美指導 相原晴伴（循環農学類教員）

前奏 「我に来たれ」（J.C.バッハ作曲）
讃美歌 讃美歌第二編 167番（われをもすくいし）
聖書 マルコによる福音書1章1-8節
祈り
さんび 酪農学園大学聖歌隊
奨励 「どこに目を留めて生きるのか」 小林昭博
報告
讃美歌 酪農讃歌
後奏 「主イエス・キリストよ、我らを顧みたまえ」
（パッヘルベル作曲）

【本日の聖書】マルコによる福音書1章1-8節

1 神の子イエス・キリストの福音の初め。

2 預言者イザヤの書にこう書いてある。

「見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、
あなたの道を準備させよう。

3 荒れ野で叫ぶ者の声がする。

『主の道を整え、

その道筋をまっすぐにせよ。』

そのとおり、4 洗礼者ヨハネが荒れ野に現れて、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。5 ユダヤの全地方とエルサレムの住民は皆、ヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。6 ヨハネはらくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べていた。7 彼はこう宣べ伝えた。「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない。8 わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる。」